



こ どくしよ ひ 子ども読書の日 おすすめの本



4月23日は「子ども読書の日」です。和光市図書館の職員が選んだ本を紹介します。

幼児むけ、小学1・2年生むけ、3・4年生むけ、5・6年生むけです。ぜひ読んでみてください。

読みたい本が貸出中の時は予約ができます。くわしくは、図書館のカウンターの人に聞いてください。

ようじ 幼児むけ



『とん ことり』

つづい よりこ 筒井 頼子 / さく はやし あきこ 林 明子 / え ふくいんかんしよてん 福音館書店 2012年発行 ぶんるい いーあか 分類 E 7カ

かなえは やまのみえるまちに ひっこしてきた ばかりです。げんかんのほうで「とん ことり」と ちいさなおとが きこえました。みにいってみると すみれのはなたばが おちていました。そとには だれもいません。つぎのひは たんぼぼが3ぼん ゆうびんうけに はさんでありました。いったい だれが もってきたのでしょうか。あたらしい であいに わくわくする おはなしです。



『ぼくがちいさかったとき』

さら おれありー さら オレアリー / ぶん じゅりー モースタッド / え すぎもと えみ / やく かがどうじん 化学同人 2023年発行 ぶんるい いーき 分類 E 5カ

「ぼくが ちいさかったときの おはなしを してよ。」ヘンリーは まいばん ねるまえに ぱぱに たのみます。すると ぱぱは ヘンリーに いろいろな はなしを してくれました。「ちいさかったとき ベッドには ぱぱ すりっぱをつかっていた。」「おふろには ティーポットをつかっていた。」ぜんぶ ほんとうのこと なのかな？

ヘンリーの たのしい えを みなから そうぞうしてみてください。



『すみれとあり』

やざま よしこ もりた たつよし かんしゅう ふくいんかんしよてん 福音館書店 2013年発行 ぶんるい いーみど 分類 E 3カ

はるに になると すみれのはなを いろいろな ばしょで みるすることができます。やわらかい つちのうえだけではなく コンクリートのわれめや たかい ばしょにも さいています。どうして こんなところに さくのでしょうか？ ありをよくみていると その ひみつが わかります。すみれのはなが どんなばしょに あるのか さがしてみたくなりませよ。



『おじいさんと池』

マックス テュコス/作 きのうち たかし やく ねんはっこう ぶんるい いー
2025年発行 分類 Eキ 名古屋外国語大学出版会

おじいさんは、家のちかくの池を 友だちのように 大切にしていました。でも、ある日とつぜん 地主にひっこすように 言われてしまいます。「池はどうなるんだ？」 おじいさんがたずねると 地主は わらって言いました。「そうだなあ。いっしょに持っていけば いいじゃないか。」

おじいさんは 池をじゅうたんのよう丸めて いっしょに ひっこすことにしました。さて、おじいさんと池は、自分たちのいばしょを 見つけることができるでしょうか？



『あいたいなシマエナガ ~もりにくらす ゆきのようせい~』

やまもと こういち しゃしん せかいぶんかしゃ ねんはっこう ぶんるい いー
山本 光一/写真 世界文化社 2023年発行 分類 Eミト

白くて ふっくらまん丸で かわいらしい 「シマエナガ」は みんなの にんきもの。でも どこにすんでいて、何をたべて、どんなふうにくらしているのか、みなさんは 知っていますか？この本では、かわいいだけじゃない 「シマエナガ」のことを 知ることができます。本の中の 二次元コードから なきごえや どうがも 見ることができます。



なかまと ささえあって 生きていく「シマエナガ」の 1ねんかんのものがたり、『シマエナガのちるとびるる』（もとした いづみ/文 きくちちき/絵 ほるぶ出版 2025年 分類913）も おすすめです。



『ちよっとだけともだち』

なかがわ ちひろ/作 のら書店 ねんはっこう ぶんるい ほんかん いー ぶんかん
2025年発行 分類 本館 Eア 分館 913

ぼくには ともだちが あまりいない。でも 妹のみどりにも おかあさんにも おとうさんにも おばあちゃんにも、ともだちがいる。ともだちがいなくて 思っていた おじいちゃんにも、まさか ともだちがいたなんて……。ともだちって どうやって つくるんだろう？

「ぜんぶが いっしょの ともだちなんて いるわけが ないんだ」。それに気づいた ぼく。「たいせつな たからものを おなじきもちで みつめる だれかに」 出あえますように。

シリーズで、『すてきなひとりぼっち』『ぼくは、ういてる』『もしかしてキセキ』もあるので、いっしょに よんでみてください。



『そうだったのか! カタツムリとナメクジ』

しまだ やすこ ちよ え どうしんしゃ ねんはっこう ぶんるい
嶋田 泰子/著 はた こうしろう/絵 童心社 2025年発行 分類 484

カタツムリはいいけど、ナメクジはちょっと・・・と言う人は多いですよね! でも、じつはナメクジはカタツムリの進化した形なのです。同じ貝の仲間でありながら、ナメクジは重たい「から」をすてて、生きることをえらんだチャレンジャーだったのです。この本は、じっさいにカタツムリとナメクジを飼育、観察してわかったそれぞれの違いや、身を守るためのすごわざなどを、楽しいさし絵をまじえて解説してくれます。梅雨の時期に見かけることが多くなる生き物たちを、じっくり観察してみませんか?



『アヤカシ薬局閉店セール』

いとう みちこ さく え かいせいしゃ ねんはっこう ぶんるい
伊藤 充子/作 いづの かじ/絵 偕成社 2010年発行 分類 913

ケチでちょっと怒りっぽい、さくらさんがやっているアカシヤ薬局は、近くに大きなドラッグストアができたことで、お客さんがパタリと来なくなりました。閉店セールをして、店をたたむことを決めたさくらさんでしたが、しゃべる招き猫のフクノ介が作ったチラシをくばったとたんに、次々に妖怪のお客さんがあらわれます。チラシには「アヤカシ薬局」と書いてありました。しっぴを買いに来る鬼や花粉症のクラスてんぐなど、個性豊かな妖怪たちと、さくらさんとフクノ介のかけあいが楽しく、また時には、心がジーンとするお話です。



『煙のように消えるねこ』

りんだ ニューベリー/作 たなか かおるこ やく たんじ ようこ え
リンダ ニューベリー/作 田中 薫子/訳 丹地 陽子/絵

とくましよてん ねんはっこう ぶんるい
徳間書店 2025年発行 分類 933ニ

サイモンは両親といっしょに、裏庭のある古い家に引っ越して来ました。サイモンが木に登って、となりの家の庭をのぞくと、一人のおばあさんが、名前をよびながら花や草に話しかけていました。そして、ふいにあらわれては突然消えてしまう、「ブルー」という名のネコも目げきします。ある日、となりに住むヘーゼルさんと出会ったサイモンは、ヘーゼルさんがだんなさんと二人ぐらして、サイモンが見たおばあさんは住んでいないことを知ります。そこでサイモンは、となりの庭でおこっているある不思議なできごとに気がつきます。サイモンが体験したできごととは、いったいどんなことだったのでしょうか?そして、ネコのブルーの秘密とは?

この本は、姉妹編に「おもちゃ屋のねこ」という本もあります。

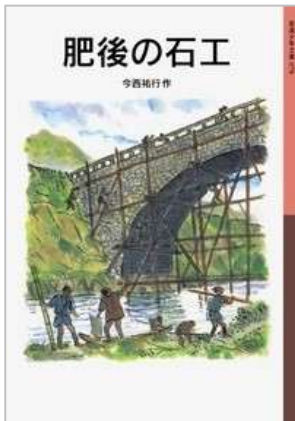


『イチからつくるプラスチック』

いわた ただひさ へん うちだ え のうさんぎよそんぶん かきようかい ねんはっこう
岩田 忠久／編 内田 かずひろ／絵 農山漁村文化協会 2020年発行
ぶんるい
分類 578

みなさんはプラスチックというと何を思い浮かべますか。ペットボトルやポリ袋、ナイロンの洋服からノートパソコン、めがねまで、日常生活の様々なものがプラスチックでできています。透明なイメージのプラスチックですが、実は真っ黒な石油からできているのです。この本では、プラスチックがどうやって作られているか、プラスチックゴミによる環境問題、プラスチックを使った実験についてまで、くわしく説明されています。

便利なプラスチックですが、浜辺にゴミとして流れついたり、海の生物がエサと間違えて、飲みこんでしまうことも少なくありません。環境問題と向き合い、プラスチックを適材適所で使うことが大切だと教えてくれる一冊です。



『肥後の石工』

ひご いしく
いまにし すけさき さく いわなみしよてん ねんはっこう ぶんるい
今西 祐行／作 岩波書店 2001年発行 分類 913

石工頭の岩永三五郎は、薩摩藩からの依頼で仲間たちと一緒に石橋をかけました。しかし、城を守るしかけを知る石工職人たちは、刺客にねらわれ、故郷へ帰ることができませんでした。ただ一人、刺客に見逃された三五郎は、生き残ったことを後悔しながらも、自分の技術を伝えていくために、命をかけて弟子たちを育て、石橋作りに取りかかります。

この物語は、実在した石工の岩永三五郎をモデルに描かれた時代小説です。三五郎がかけた「甲突川五石橋」のうち3橋は、鹿児島県の石橋記念公園に移設・復元されており、美しいアーチ型のめがね橋を、今でも見ることができます。



『ひとりぼっちのベア』

ハンナ ゴールド／作 さく たなか なつこ やく せいざんしゃ ねんはっこう
ハンナ ゴールド／作 田中 奈津子／訳 静山社 2025年発行
ぶんるい
分類 933

11歳の少女エイプリルは、科学者の父親と一緒にしばらくの間、北極圏にある「ベア島」で暮らすことになりました。かつて、ホッキョクグマがたくさんいたベア島ですが、氷がとけたり、人間が狩ってしまったせいで一頭もいません。ところが白夜の夜、探検に出たエイプリルは、迷子のホッキョクグマと出会います。傷つき、弱っていたホッキョクグマのベアと交流するうちに、一人と一頭の間に友情が芽生えはじめます。そのうちエイプリルは、ベアを故郷の島であるスバルバル諸島まで帰りたいと考えますが・・・。

この物語は、人間と動物の種族を超えた友情とともに、エイプリルと父親のぎこちない関係についても描かれています。ベアは故郷に帰れるのか、エイプリルと父親の距離は縮まるのか、ぜひその結末を確かめてみてください。